

中根雅夫教授退職記念号の発刊によせて

経営学会長 中 野 常 男

2019年度をもって中根雅夫教授がご退職されるにあたって、『経営論叢』第9巻第2号を、「中根雅夫教授退職記念号」として発刊できることお喜び申し上げます。

中根雅夫教授は、本学政経学部経営学科ならびに経営学部経営学科、さらには大学院経営学研究科を通じて、長らく経営情報論をご担当されましたが、その間、政経学部・経営学部ならびに大学院経営学研究科の中心的存在として、教育・行政・研究、ならびに社会貢献の各方面において多大なご貢献をされました。中根雅夫教授は、1978年に横浜国立大学経営学部管理学科をご卒業後、筑波学大学院経営政策科学研究科に進学され、産業能率大学ならびに朝日大学を経て、1990年に本学に入職されました。本学入職後、中根雅夫教授は、学部と大学院の情報系科目である「経営情報論」をご担当されてきました。

学内行政においては、中根雅夫教授は、経営学部長のほか、大学院経営学研究科委員長、国際交流センター長、キャリア形成支援センター長など、学部内外の重責を果たされてきました。なかでも退職までの貴重な数年間を経営学部長として、経営学部をまとめていただいたご功績は、現在の経営学部の礎となっております。

研究活動においては、中根雅夫教授は、長年にわたって「情報と組織」をテーマに、情報技術（IT）の発展が組織とそのマネジメントにどのような影響をもたらすのかについてご研究を積み重ねられました。特に、ご在職中にITがめざましい発展を遂げたことから、教授の研究対象も、古典的なEDPS（Electric Data Processing System）やMIS（Management Information System）から、インターネットやブロードバンドを経て、最新のEC（Electric Commerce）

やソーシャルメディア（Social Media）まで拡大しました。数多くの研究業績のなかで、中根雅夫教授は、こうしたITの発達が、私たちの働き方やつながりを変え、組織と組織間関係を変革し、そしてコミュニティや地域社会を変貌させることを指摘してきました。こうした知見を活かして、中根雅夫教授は、足立区地域情報化推進委員会、足立区経済活性化委員会、世田谷シニアスクール講師など、学外での社会貢献も積極的に展開されてきました。

以上、中根雅夫教授には、本学での教育・行政・研究、ならびに学外での社会貢献において、多大なるご貢献をいただきました。このたび『経営論叢』第9巻第2号を、「中根雅夫教授退職記念号」として発刊することで、中根雅夫教授への感謝の意を示すとともに、今後のご活躍をご祈念申し上げたいと思います。